

消防団の活動を通して

災害時の出動や日頃の訓練など、地域の安全のため、日々訓練や出動といった活動を続ける消防団員。そんな消防団員それぞれの入団したきっかけや実際の活動の様子を聞きました。



南方町裏大岳
鈴木 愛美さん

さまざまな経験を成長に

私は、父が消防士だったため、人を助ける姿に、子どものころから憧れを持っていました。就職してから3年が経ったときに、近所の女性消防団員から「若い人が少ないから消防団に入ってくれないか」と相談されました。普段の仕事と両立できるか不安があり少し考えましたが、東日本大震災のときの消防団員の活躍を思い出し、私も地域の役に立ちたいと考えて入団を決意しました。女性消防団は、消火活動の際の救護活動や防災を呼び掛ける広報活動がメインです。広報活動の一環として、幼稚園などで紙芝居の読み聞かせや人形劇を披露することもあります。消防団に入って良かったことは、各町域の消防団員や地域住民とつながりが持てることです。また、日本各地で開かれる大会に参加できることもとても励みになります。普段できない経験がたくさんできるので、今後も活動を続けたいと思います。



津山町横山6区
橋 智大さん・智法さん

父が守ってきた地域をつなぐ

智法：私は、家業のお寺を継ぐための修行を終え、地元である津山町に帰ってきてすぐ消防団員になりました。入団してからは、30年以上が経ちます。消防団の活動の中で交流が生まれ、地域の人たちの名前や顔を覚えることができたので、本業の方も円滑に進められることが多くなるなど、良い影響がありました。地域の防災力向上はもちろんですが、交流の場としても大切な役割を果たしていると思います。智大：私も修行を終えて帰ってきた昨年の5月に入団し、今年で2年目になります。幼いころから父が出動の様子を見ていたので、自分も家業を継いでいくうえで、消防団員になるのは当たり前という感覚で入団しました。今はコロナの感染拡大防止のため、あまり訓練活動はできていませんが、早くさまざまな防災の知識を学んで、父のように地域の安全を守る活動に生かしていきたいと思っています。



消防団協力事業所 渡辺建設
渡邊 由理代表取締役

企業として協力出来ることを

私は、10年前に同級生から誘われたことがきっかけで消防団に入団しました。私がまだ小さかった頃、父が営んでいた会社で不意にブルーシートが燃えてしまったことがありました。幸い、すぐに消防車が来て消火されましたが、災害時はスピードが大切だと感じたことから、少しでも役に立てればと思い、入団を決めました。今は、昼間は会社などで働いている人が多いと思うので、会社側の消防団への理解は大切だと思います。仕事中でも、住んでいる地域から近い職場の人が会社から許可を得て出動することができれば、その分火災は早く収まります。また、消防団員向けに開催される救助演習などに参加する従業員が多くいることで、災害以外の緊急時にも素早く対応できるので会社としても良いことだと思います。消防団に対して企業側の協力が広がり、若い人たちにも消防団員に興味を持つ機会が増えれば良いなと思います。

「自分たちで地域を守る」

引き継がれてきた思いを誇りに

私は昨年度から、登米市としては4代目となる消防団長を務めています。

私が消防団に入団したのは昭和53年です。もう40年以上も前になります。あの頃は志願者が多く、入団を断っていた地域もあったので、消防団員になることはとても誇らしいことでした。

今は勤めている人が増えたこともあってか、団員数は年々減り、現在は1312人。それぞれの生活がある中で1312人全員がいつでも出動できるわけはありませんし、災害はいつ起こるか予測

できません。

団員の数は地域の防災力に直結すると思っています。近年は、台風や地震による災害が増えています。消防団は互助のための組織。昼間、家庭にいる人が少ない時代だからこそ、企業の協力を得るなどして時代に合った消防団の形を作っていくなくてはならないと思っています。

また、訓練も同様に、今までは各団や班ごとに活動時の役割を決め、同じ人が同じ役割をすることが多いのですが、これも多くの人がさまざまな役割をこなせるようにしてい

きたいと考えています。

確かに消防団の活動は、日頃の訓練や緊急時の出動など、大変なこともあります。それでも、大切な地域を守るために消防団は無くしてはならない存在です。「自分たちで地域を守る」。そしてその活動ができることを誇りに思っています。

今までそういった伝統が受け継がれ、救われた人たちが多くいます。その伝統を市民みんなでつなぎ、安心して暮らせる地域を、登米市の未来へ引き継いでいきたいと考えています。



登米市消防団
菅原 英義 団長

1951年生まれ。78年中田町消防団へ入団。2007年登米市消防団中田支団分団長、13年同支団長を経て、19年より消防団長に就任。

消防団員を募集しています



市では、災害時、消火活動に当たる消防団員を募集しています。また、予防広報や応急手当の普及啓発を中心に活動する「女性消防団員」、演習などでのラッパの演奏を担当する「ラッパ分団員」も募集しています。

地域の安全を守るために、ぜひ力を貸してください。

【入団資格】

- ▶登米市内に在住しているまたは通勤・通学している人
- ▶年齢が満18歳以上の人
- ▶心身ともに健康な人

【問い合わせ】消防本部警防課(消防団係)

☎0220(22)1901